

民踊クラブ

お年寄りばかりのクラブかと思いましたが、50代から60代そこそこの年代も混じって、なかなか賑やかな雰囲気です。もともとは公民館主催の高齢者学級生によって結成されたものですが、現在は対象制限もなく、踊りの内容も民謡や歌

踊って健康 一石二鳥

謡曲など大衆的なものを中心にしていきますので、誰でも気軽に仲間入りできるのが、このクラブの特長です。

「60の手習いで、恐る恐る足を踏み入れましたが、いつの間にか20年が経ちました。この間、殆ど休んだことはありませんが、それはすばらしい先生と良い仲間めぐり合えたからです。」

最古参だという勝本ヒデさんは、まるで年齢を感じさせない快活な笑顔で、「こう語ってくださいました。」

こんなに長い年数やっていても一度もゴタゴタは起きな

かった、というクラブのまとめ役は大木隆さん(鳥喰上)。万事に控え目で、温厚そのものですが、芸ごとの好きな方だけに熱意は人一倍で、會員の信頼も絶大です。

民踊の良さ等をお聞きしますと、「ゲートボールは体力を要しますし、カラオケはもう声が出ません。その点民踊は適度な運動です。で私どもには最適の趣味だと思います。男性もおりますし、中年の方々も入ってくれましたので、一段と活気が出てまいりました。」とのコメント。

指導にあたるのは、発足



練習日が楽しみ
踊ることので身も心もいきいき

当時から若柳和里先生(旭市)、「先生あつての20年」といわれるほどに、時には厳しく時にはやさしい手綱さばきで、着実にレベルアップを図ってくれています。

一曲をこなすのに約3か月(6回)かかりますが、文化祭等の発表の場へ向けて、楽しい活動が続けられています。

■練習日時 毎月第1・3木曜日 午後1時〜4時

文芸

俳句

讚美歌の流るる窓や柿の花

宮内 澄男

柿咲いて寡黙の二十才農を継ぐ

宇井 芝童

そら豆の仕上げ色よし小どんぶ

海保 きみ

花重りして山吹の群暮れきれず

勝又やすのり

母の日も離さぬ母の割烹着

鈴木 草庵

洗髪髪そつと吹きすすぐ若葉風

津田 若菜

潮分けて濁り押し出す五月川

成田栄三郎

露煮るや日の目を見たる罌の釜

藤代 ゆう

よせ刈りや去年なくしたるパイ

若梅あやめ

鉄橋の始発の音や明易く

(選者) 土屋 栗水

短歌

あれこれと言はれし言葉推し量りきのふも今日も拘りるたり

伊藤 文子

下宿する子からの電話切りてよ

秋葉 悦子

雨宿る森に咲きたる木いちごは

宇井 ちい

雫を通し甘き匂ひす

大場 和可

家うつりをしたる隣家のあれ庭

掛川 友代

にマーガレットの白き花咲く

向後 泰治

咲きたけて花弁はつかな紅をみ

斎藤 秀男

す白芍薬に春日おだしも

斎藤 要

押されゆく国宝展は見たきもの

斎藤 佳子

あれとただただ通り過ぎたり

斎藤 つね子

安住の野に着き得るやタンポポ

斎藤 つね子

の絮毛は畦を後に飛びゆく

斎藤 つね子

竹垣にからまり登るクレマチス

斎藤 つね子

人住まぬ家に紫こゆく

斎藤 つね子

降る雨も護水親王偲べるか鎌倉

斎藤 つね子

宮の岩牢暗し

斎藤 つね子

蕨折る耳に聞えし小綬鶏の声遠

斎藤 つね子

のきてまたしづもれり

(選者) 斎藤 つね子